

# ハッピートーク ～市長と語る子育て交流会～

市では、10月から11月にかけて、市内3つの保健センターを会場に、若い夫婦や出産予定、子育て真っ最中の皆さんを対象とした懇談会を実施しました。題してハッピートーク。本紙では、その開催内容の一部をご紹介します。詳しくは、笠間市ホームページをご覧ください。

## ◆マル福・児童手当について

**Q** マル福や児童手当は何人が受けているのか、また、出生数について伺いたい。

**A** マル福については、乳幼児、妊産婦、母子家庭や父子家庭、障害者などを含めて、平成18年度で7千571人で、4億3千万円を支出しています。児童手当の該当者数は年間延べ9万人で、子どもの対象者は7千689人



です。出生者数は年間650人程度ですが、多いときは700人台になります。出生者数と死亡者数は4年ぐらい前まで同程度でしたが、今では死亡者数が増え、人口が自然減少しています。

## ◆学校給食の食材について

**Q** 給食の食材の流通経路や残留農薬の有無がわからない。岩間給食センターでは、予算の都合上、冷凍食品を使うことも多いと聞いたが、地産地消も取り入れてほしい。また、事故米を使っていないのなら、献立表などに表示してほしい。

**A** 笠間市の給食には、事故米や中国産の冷凍食品を使っています。地産地消は安全性や食への関心という意味で良いことですが、給食では一定量を確保する必要がありますので、農協と協力して協議を進めているところです。

## ◆校舎の耐震について

**Q** 校舎の耐震の問題で、どの学校が危ないのか公表できないか。

**A** 昭和56年以降に建てられた学校は新しい建築基準法に基づいて建てられているので問題ありません。昭和56年以前に建てられた校舎は6校ありますので、耐震診断を順次行っています。そのうち、友部中学校は既に補強を行い、岩間中学校は建て替え工事中です。笠間中学校は今年、耐震診断を行います。稲田小学校は昭和56年ぎりぎりのところに建てられました。一方で、学校の適正規模（小学校1校12学級、中学校1校9学級）という基準があり、笠間市でこの規模を下回っている学校がありますので、耐震と学校の統廃合の考え方を合わせて検討していかなければなりません。来年度、地域やPTA、議会などを含めた検討委員会

を立ち上げようと考えています。

## ◆乳幼児医療福祉費助成制度の対象年齢の引上げについて

**Q** 医療費の助成対象を小学校未就学児から小学3年生ぐらいまで引き上げられないか。

**A** 助成対象を拡大するという意見はありますが、小学3年生まで引き上げると、最低でも1億円以上かかってしまいますので、なかなかできない状況にあります。医療福祉費助成制度の中で受給者の自己負担分の助成を全対象者に行っているのは、県内では笠間市と東海村だけです。

## ◆街灯の設置について

**Q** 街中は明るいですが、郊外は暗くて危険なので、街灯を整備してほしい。

**A** 今までの市政懇談会でも多くの要望があり、今年度は9月に補正予算を付けました。来年度も通学路や暗いところを中心に積極的に整備していきたいと思っております。役所や学校、区長さんに話をさせていただきたいと思っております。なお、民家のある場所は設置助成金を支出し、行政区で対応していただいております。

## ◆市政懇談会の開催方法について

**Q** 以前住んでいたところでは、各幼稚園のPTAが保護者からとったアンケートを集約し、要望書として市長との会合に提出していた。保護者の要望や意見がダイレクトに伝わるため、市長も評価していた。笠間市でもこうした方法を考えてはどうか。

**A** 皆さんとの懇談会は、今後ぜひ継続していきたいと思っております。PTAや皆さんが市長と懇談したいということであれば、私はどこへでもまいりますので、秘書課に言っていたらいいと思います。

## ◆子どもの一時預かりについて

**Q** 母親は子育てにフル活動しており、自分が病院に行きたくても、子どもの世話をしてくれる人がいなければ、仕方なく連れて行くことも多い。ボランティアさんに声をかけて、一時的に預かってくれる仕組みづくりをお願いしたい。

**A** 私もそう思いますので、仕組みづくりについて検討したいと思っております。なお、市の緊急一時保育事業ですが、1日2千円で実施しています。問合せ先▼秘書課（内線224）